

平成29年度

北海道開発局事業概要
(事業別)

平成29年3月

国土交通省北海道開発局

< 目 次 >

1. 治水関係事業	・ ・ ・ P 1
2. 道路事業	・ ・ ・ P 1 4
3. 港湾整備事業	・ ・ ・ P 3 0
4. 空港整備事業	・ ・ ・ P 3 5
5. 農業農村整備事業	・ ・ ・ P 3 9
6. 水産基盤整備事業	・ ・ ・ P 4 3
7. 官庁営繕事業	・ ・ ・ P 4 5
(参考) アイヌ文化の振興	・ ・ ・ P 4 6
(参考) 北海道開発計画調査	・ ・ ・ P 4 7
(参考) 平成29年度 道路の主な開通予定	・ ・ ・ P 4 8

1. 治水関係事業

強靱で持続可能な国土の形成

【恵み豊かな自然と共生する持続可能な地域社会の形成、強靱な国土づくりへの貢献と安全・安心な社会基盤の形成】

世界に目を向けた産業

【世界水準の観光地の形成】

(1) 恵み豊かな自然と共生する持続可能な地域社会の形成

① 河川環境の保全・再生の推進

北海道の恵まれた自然環境の保全・再生を図るため、地域住民、NPO、学識経験者、関係機関等が連携・協働し、各種施策を推進します。

近年、流域の発展に伴い湿原面積が著しく減少している釧路湿原において、久著呂川における湿原中心部への土砂流入の抑制及び幌呂地区の湿原再生等を引き続き推進します。

このほか、天塩川下流地区において汽水環境の再生、十勝川の札内川地区において礫河原の再生、石狩川下流（幌向地区）において湿原等の再生を引き続き推進します。



釧路湿原自然再生（幌呂地区湿原再生）

② まちづくりと一体となった魅力ある水辺空間の創造

「丘のまちびえい」で知られる美瑛川地区等において、まちづくりと連携した水辺整備を行うことで、水辺とまちの活性化に向けたかわまちづくりを推進するとともに、網走市のまちづくりと連携し活力あふれる地域の振興を目指したかわまちづくりに着手します。

また、北海道の水辺を活かした新たな賑わいを生み出すため、住民・企業・行政が一体となり、水辺とまちの未来を描く取組を展開します。（ミズベリング・プロジェクト）

③ 河川協力団体について

河川の維持、河川環境の保全等、河川管理に資する活動を自発的に行っているNPOや町内会などの民間団体を河川協力団体として指定し、河川管理者と連携して活動する団体として位置づけ、自発的な活動を支援しています。

④ 海岸協力団体について

海岸の維持、海岸環境の保全等、海岸管理に資する活動を自発的に行っているNPOや町内会などの民間団体を海岸協力団体として指定し、海岸管理者と連携して活動する団体として位置づけ、自発的な活動を支援しています。

⑤ 公共事業の実施に伴う発生土砂等の有効活用等

河川事業で発生する土砂については、堤防等の河川整備に流用するほか、平成 28 年 8 月洪水により被災した農地の復旧や農地の土壌改良材として有効活用し、北海道の基盤産業の一つである農業の生産性向上を図ります。



河川内の樹木については、民間企業等が木質バイオマスエネルギー等で幅広く利活用できるよう、河川法第 25 条を適用した採取（伐採）の取組等により、樹木管理費用の縮減と循環資源の利用システムの構築・活用を推進します。

ダム貯水池で集積した流木については、一般の方への無料配布や、チップ化による園路整備等、資源の有効利用に取り組めます。



河川内の樹木は、民間での木質バイオマスエネルギー等に利活用



ダム貯水池で集積した流木は、無料配布やチップ化し園路整備として利活用

また、堤防除草により毎年発生する刈草は、地域で家畜の敷藁に使用するなどの利活用を進めるとともに、新たにバイオガス資源として提供し、除草費用の縮減と循環型の地域づくりを推進します。



堤防の刈草は、家畜の敷藁やバイオガス資源として利活用

(2) 強靱な国土づくりへの貢献と安全・安心な社会基盤の形成

① 千歳川流域の治水対策の推進

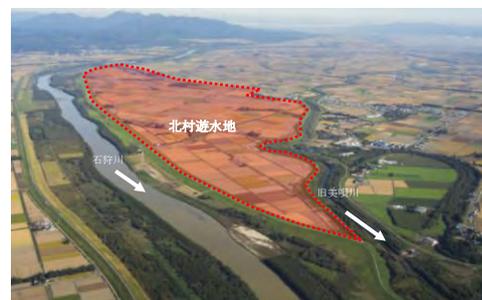
千歳川の治水対策は、発展の著しい道央圏の防災対策として緊急を要する重要な課題であり、平成17年4月に策定された千歳川河川整備計画に基づき、石狩川の高い水位の影響を長時間受けることに対応した堤防の整備や河道掘削及び遊水地群の整備等を推進します。



千歳川遊水地群の整備

② 石狩川流域の治水対策の推進

石狩川下流域には道都札幌市等が位置し、北海道の社会、経済の中核となっているほか、流域内の広大な農地は我が国固有数の食料供給地です。特に昭和56年8月洪水時には、甚大な浸水被害が発生しました。この戦後最大規模の洪水から石狩川下流域を防御するため、北村遊水地の整備を推進します。



北村遊水地の整備

③ 大都市地域で壊滅的な被害を防止するための治水対策の推進

洪水時に堤防が決壊すると壊滅的な被害が予想される札幌都市圏を貫流する豊平川において、流下能力不足となっている下流部の河道掘削等を推進します。



豊平川の河川改修

④ 「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づくハード・ソフト対策の推進

平成27年9月関東・東北豪雨を踏まえた「水防災意識社会 再構築ビジョン」の取組として、「洪水はん濫を未然に防ぐ対策」、「危機管理型ハード対策」を推進するとともに、各水系の「減災対策協議会」にて取りまとめられた取組方針を踏まえ、関係機関と連携し、タイムラインの作成・改良、洪水情報のプッシュ型配信、市町村のハザードマップ作成への支援、住民参加型の防災訓練等のソフト対策を推進します。

⑤ 「北海道緊急治水対策プロジェクト」に基づくハード・ソフト対策の推進

平成28年8月の一連台風災害を踏まえ、「北海道緊急治水対策プロジェクト」として、大きな被害を受けた河川を中心に、被災箇所への復旧や、洪水時の水位を下げるための河道掘削などのハード対策を緊急的、集中的に進めるとともに、住民の避難を促すためのタイムラインの作成・改良や、洪水情報のプッシュ型配信等のソフト対策を推進します。

⑥ 多目的ダム建設の推進

洪水から人命、財産を守り、水道用水等の新規利水の需要に対応し、安定した川の流れの確保による農業用水の安定供給や河川環境を保全する多目的ダムの建設について、サンルダム、平取ダム（沙流川総合開発）、新桂沢ダム及び三笠ぽんべつダム（幾春別川総合開発）の早期完成に向けて推進します。



平取ダム（本体工事）

⑦ 火山噴火等に備えた土砂災害対策の推進

噴火による大規模な災害が発生するおそれのある樽前山・十勝岳において、火山砂防事業を重点的に推進します。
上流域の土地荒廃が著しく、流出する土砂が下流域に被害を及ぼすおそれのある石狩川上流域・豊平川・札内川において砂防事業を推進します。



樽前山おぼっぴ覚生川砂防堰堤群の整備

⑧ 海岸侵食対策の推進

北海道の物流の要であり、重要交通網である苫小牧港、国道36号、JR室蘭本線が隣接するとともに、それらに面して住宅が密集している胆振海岸において、海岸侵食対策として人工リーフ整備を推進します。



胆振海岸（白老工区）人工リーフ

⑨ 河川管理施設の戦略的な維持管理・更新の推進

河川の維持管理では、一級河川13水系の大臣管理区間における、ダム、堤防、水門・樋門、排水ポンプ等の河川管理施設を良好な状態に保つように維持し、確実な操作を実施するとともに、所要の機能を確保するため、点検・評価結果に基づく補修・更新等を実施します。

また、施設の老朽化の進行や北海道特有の凍害劣化に対応し、トータルコストの縮減や平準化を図るため、長寿命化計画等に基づく予防保全を実施するなど、戦略的な維持管理・更新を推進します。



施設の点検（樋門）



施設の点検（ダムゲート）



施設の補修に合わせた
自動開閉式ゲートの導入事例

⑩ 大規模災害に備えた危機管理体制の強化

近年増加する集中豪雨や局所的な大雨による水害や土砂災害等に対して、施設管理や防災活動等に役立てるために、従来のCバンドレーダ雨量計を高性能化（CバンドMPレーダ雨量計）し、XバンドMPレーダ雨量計と組み合わせたXR A I Nにより危機管理に努めるとともに、防災情報収集のための機器整備を行います。



XバンドMPレーダ雨量計
（石狩局）

⑪ ダム再生の推進に向けた調査・検討

頻発する水害に対し、支川・上流部等の治水安全度を早期に向上させることや、水力などの再生エネルギーの導入促進を図ることを目的に、管内の河川において候補箇所を調査するなど、ダム再生を推進する調査を実施します。



既存ダムの有効活用事例
（新桂沢ダム）

ちとせ 千歳川遊水地群整備事業

（直轄）

1. 概要

千歳川の中下流部には広大な低平地が広がっているため、洪水時に石狩川本川の高い水位の影響を長い区間にわたり長時間受けるなど水害が起きやすい特性を有しており、ほぼ2年に1回という頻度で水害に見舞われています。

特に、昭和56年8月上旬洪水は未曾有の大洪水となり、被害家屋2,683戸、浸水面積192km²の被害をもたらしました。

本事業は、「堤防強化（遊水地併用）案」を盛り込んだ千歳川河川整備計画が、平成17年4月に策定されたのを受けて、度重なる水害の解消を図るため、遊水地群を千歳川本支川に分散して整備し、災害の防止を図るものです。

2. 計画内容

箇所名：江別市（江別太^{えべつぽと}）、南幌町（晩翠^{ばんすい}）、北広島市（東の里）、恵庭市（北島）、千歳市（根志越^{ねしこし}）

面積：A=1,150ha

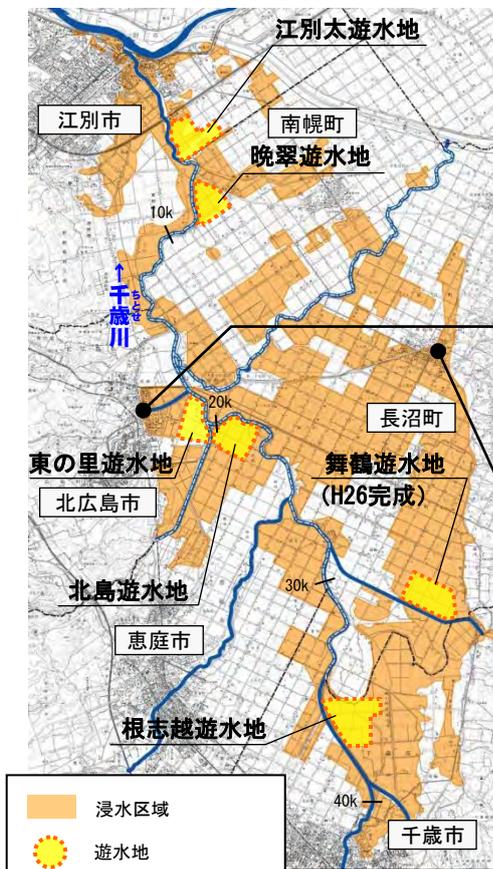
全体事業費：C=1,150億円

事業予定期間：平成20年度～平成31年度

H29実施内容：掘削、築堤、用地及び補償費等



■ S56.8 上旬降雨による浸水区域



昭和56年8月洪水の浸水状況



■ 遊水地のイメージ



1. 概要

石狩川下流域には道都札幌市等が位置し、北海道の社会、経済の中核となっているほか、流域内の広大な農地は我が国数の食料供給地となっています。特に昭和56年8月上旬洪水時には、11箇所の堤防が決壊するなど、氾濫面積614km²、被害家屋約22,500戸におよぶ甚大な浸水被害が発生しました。この戦後最大規模の洪水から石狩川下流域を防御するため、北村遊水地の整備を推進します。

2. 計画内容

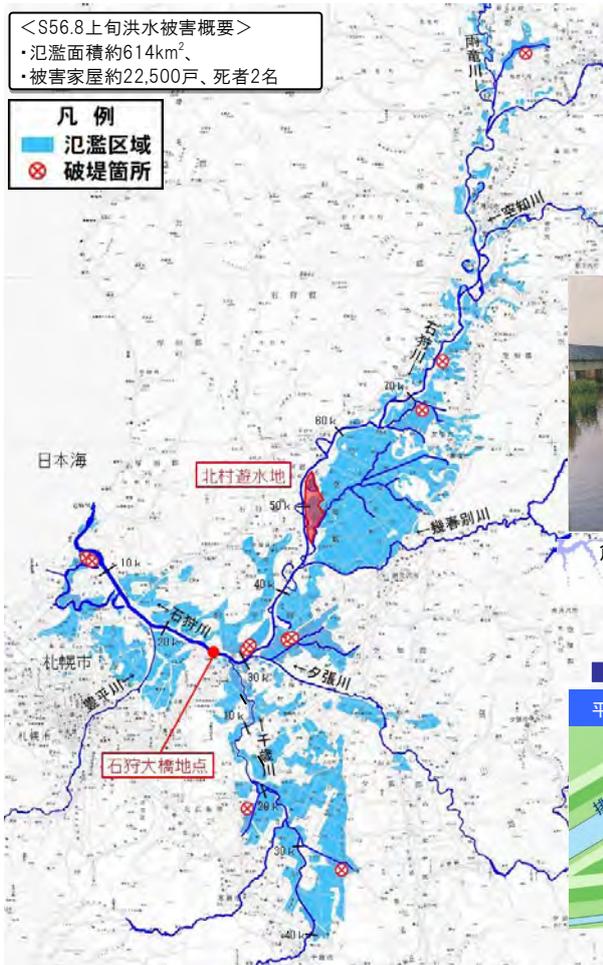
- 箇所名：岩見沢市、月形町、新篠津村
- 面積：A=950ha
- 全体事業費：C=700億円
- 事業予定期間：平成24年度～平成38年度
- H29実施内容：築堤、用地及び補償費等



■S56.8上旬降雨による浸水区域

<S56.8上旬洪水被害概要>
 ・氾濫面積約614km²、
 ・被害家屋約22,500戸、死者2名

- 凡例
- 氾濫区域
 - 破堤箇所



昭和56年8月洪水の浸水状況



創成川 市街地の浸水状況 (札幌市)



石狩川右岸 下新篠津付近の氾濫状況 (江別市)

■遊水地のイメージ



平時時は農地として利用



洪水時は遊水地として利用

平成29年度（継続）

河川災害復旧等関連緊急事業（十勝川）

（直轄）

1. 概要

平成28年8月台風10号により、十勝川では計画高水位を超える洪水となり、上流区間の支川芽室川（北海道管理区間）においても越水により堤防が決壊し、氾濫被害が発生しました。支川芽室川の被害に対しては、北海道にて再度災害防止を目的に改良復旧することとしており、芽室川の流下能力増による十勝川本川への流入量増により、十勝川においても対応が必要となります。

これを踏まえ、支川の流下能力増を流下させるための十勝川本川の河道掘削を、河川災害復旧等関連緊急事業として緊急的に実施し、再度災害防止を図るものです。

2. 計画内容

箇所名：豊頃町、池田町、幕別町、音更町、帯広市、芽室町

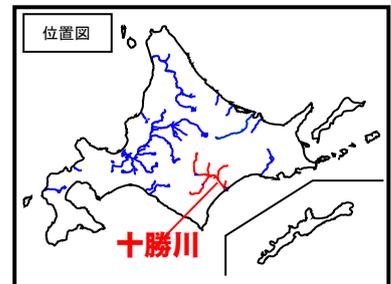
掘削延長：L=60.4km

掘削土量：V=2,640,000m³

全体事業費：C=104億円

事業予定期間：平成28年度～平成31年度

H29実施内容：河道掘削



河川災害復旧等関連緊急事業（常呂川）

（直轄）

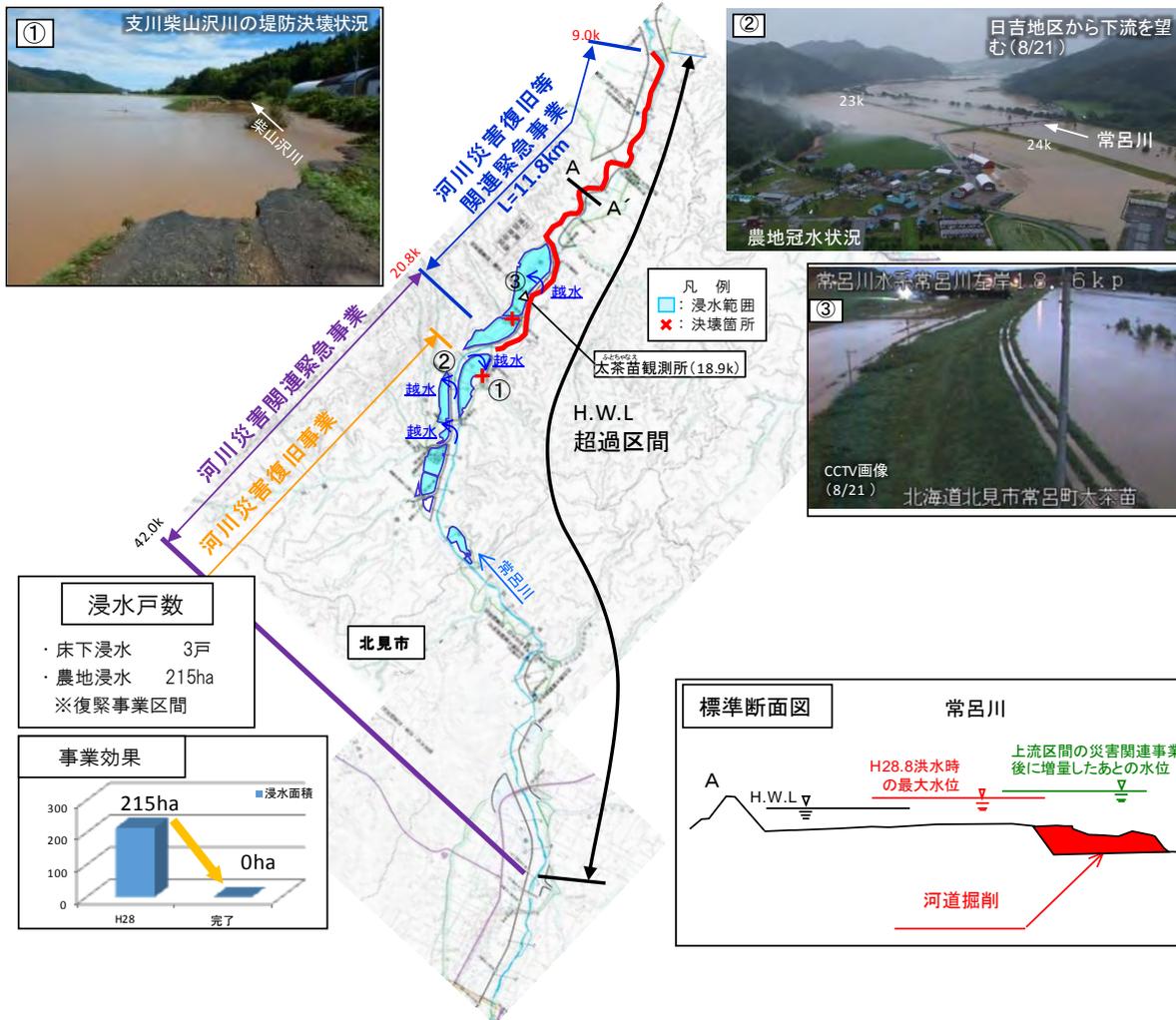
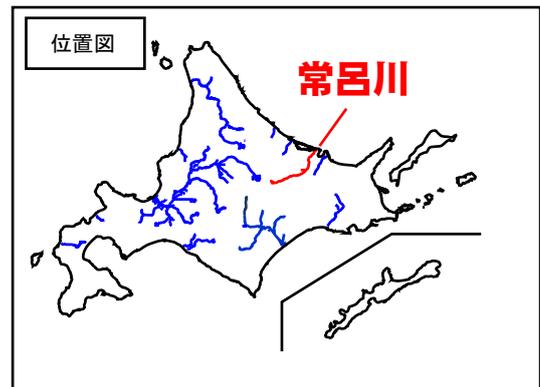
1. 概要

常呂川では、平成28年8月の一連の台風による断続的な大雨の影響で、中・下流部では堤防越水に伴う大規模な浸水被害が生じました。この被害に対して被災施設の復旧とあわせ、再度災害防止対策のため、河川災害関連緊急事業で堤防越水区間の水位低下を目的に河道掘削を行います。

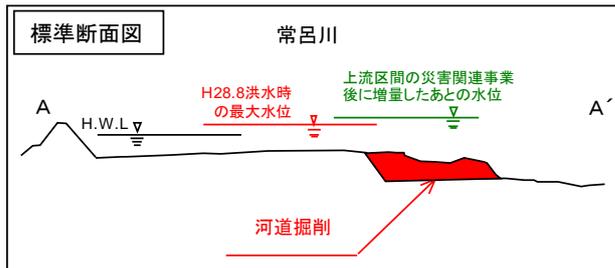
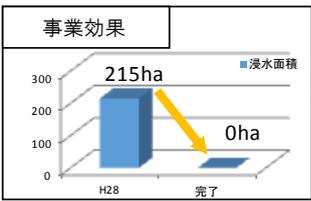
この河川災害関連緊急事業による再度災害防止のための河道掘削により、下流への負担増となることから、河川災害復旧等関連緊急事業により緊急的に河道掘削を行い、再度災害防止を図るものです。

2. 計画内容

- 箇所名：北見市
- 掘削延長：L=11.8km
- 掘削土量：V=644,000m³
- 全体事業費：C=23億円
- 事業予定期間：平成28年度～平成31年度
- H29実施内容：河道掘削



浸水戸数	
床下浸水	3戸
農地浸水	215ha
※復緊事業区間	



平成29年度（継続）

沙流川総合開発事業（平取ダム）

（直轄）

1. 概要

沙流川流域は水田・畑作を主体とする農業が盛んであり、特に平取町におけるトマトの収穫量は全道一を誇り、重要な基幹産業となっています。近年においても当流域で頻発する洪水災害から地域社会を守るため、平取ダムの建設を推進します。

昭和57年度に建設事業に着手した沙流川総合開発事業（二風谷ダム（平成9年度完成）、平取ダム）は、平成31年度の完成に向けて、事業を継続します。

○平成29年度実施内容 本体工事、付替道路工事等

2. 計画内容

○目的

- ・洪水調節（沙流川、額平川の洪水防御）
- ・流水の正常な機能の維持
- ・水道用水の供給（平取町、日高町：0,030 m³/s）
- ・発電（二風谷ダムのみ）（ほくてんエコエナジー(株)：最大 3,000kW）

○ダム諸元

- ・型式：重力式コンクリートダム
- ・堤高：56.5m
- ・堤頂長：350m
- ・堤体積：177,000m³
- ・総貯水容量：45,800,000m³



完成予想図



本体工事状況（平成28年7月撮影）

いぶり 胆振海岸 海岸保全施設整備事業

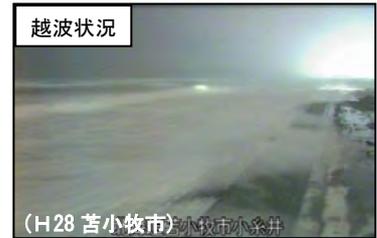
（直轄）

1. 概要

胆振海岸は北海道の物流の要である苫小牧港の西側に位置する海岸であり、背後には重要交通網の国道36号、JR室蘭本線が隣接するとともに、それらに面して住宅が密集しています。当海岸では、海岸侵食の進行に伴い、夏期から秋期にかけての台風や季節風による波浪災害が頻発しており、住民生活、経済活動に重大な影響を及ぼしていることから、海岸侵食対策として人工リーフ整備を推進します。

2. 計画内容

- 箇所名：苫小牧市、白老町
- 直轄区間延長：L=24.595km
- 事業開始時期：昭和63年度
- H29実施内容：白老工区 人工リーフ 等



くしろ 釧路川総合水系環境整備事業

（直轄）

1. 概要

釧路湿原は、我が国最大の湿原であり、昭和55年に国内最初のラムサール条約による国際保護湿地として登録され、次いで昭和62年には湿原単体としては初めて国立公園に指定されているなど、豊かな自然環境に恵まれています。しかし、流域の発展に伴い釧路湿原の面積が急激に減少し、乾燥化などによる質的な変化が現れています。

このため、平成15年の自然再生推進法の施行を受け、同年に地域住民、学識者、関係行政機関等多様な主体の参加による「釧路湿原自然再生協議会」が設立され、平成17年には、同協議会により「釧路湿原自然再生全体構想」が策定され、地域の協働のもと釧路湿原の保全・再生に取り組んでいます。一方で、地域産業と連携した湿原のワイズユースにより、湿原を保全・再生し、将来にわたり地域産業が豊かになる取組も進めています。

2. 計画内容

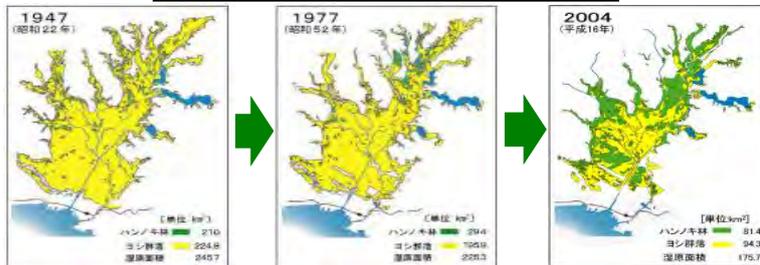
箇所名：標茶町、鶴居村

実施内容：旧川復元（茅沼地区）、土砂流入対策（久著呂川）、湿原再生（幌呂地区）

事業予定期間：平成13年度～平成45年度

H29実施内容：人工ケルミ（久著呂川）、湿原再生（幌呂地区）、モニタリング等

湿原面積の急激な減少と湿原植生の変化



流域の経済活動の拡大に伴い、この60年間で湿原面積の約3割が減少、ハンノキ林が約4倍に拡大。

	1947年	1977年	2004年	
質的变化	ハンノキ林 約20km ²	約30km ²	約80km ²	約4倍増
量的変化	湿原面積 約250km ²	約230km ²	約180km ²	約3割減



釧路湿原自然再生の取組状況（赤：釧路川総合水系環境整備事業）

茅沼地区の旧川復元（モニタリング中）

2. 道路事業

<基本方針>

平成28年3月に閣議決定された北海道総合開発計画においては、「人が輝く地域社会の形成」、「世界に目を向けた産業の振興」及び「強靱で持続可能な国土の形成」を主要施策として推進することとしています。特に、北海道の強みである「食」や「観光」に関連する分野等における成長と競争力の強化、地域社会に活力をもたらす生産空間・基礎圏域の保持・形成を図るための基盤整備を推進するとともに、社会情勢の変化の中でも生産性の向上に資する事業を推進します。

また、昨年8月に北海道を襲った大雨により、北海道開発局が管理する国道においても甚大な被害が発生しました。国道274号日勝峠は今年秋頃の通行止め解除を目標に復旧工事を進めておりますが、引き続き北海道の豊かな資源・特性を活かし、「社会のベース」の生産性向上にも資する防災・減災対策や老朽化対策等による国土強靱化を推進し、安全安心に暮らせる社会基盤の確立を図ります。

<主要施策>

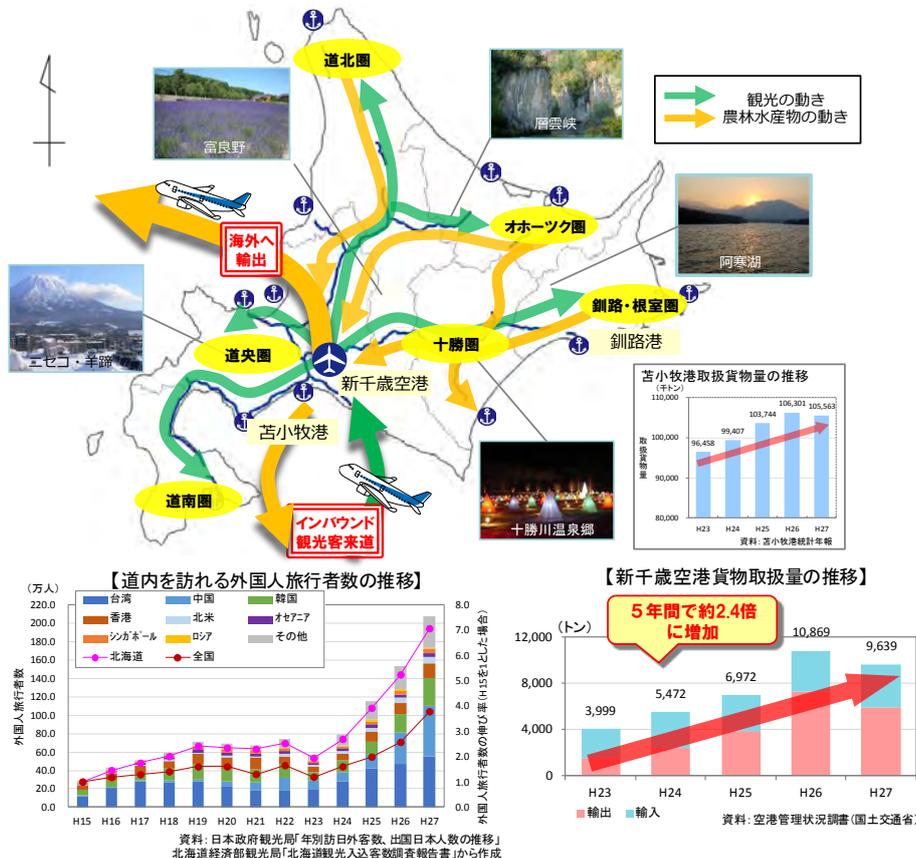
1 人が輝く地域社会の形成

【北海道型地域構造の保持・形成に向けた定住・交流環境の維持増進、世界に目を向けた産業の振興】

(1) 広域分散型の地域構造を支える交通ネットワークの形成

広域的な交流・連携の確保、生産地や観光地、空港・港湾等とのアクセス強化により、農林水産業・観光産業など地域産業を支える高規格幹線道路等の整備を推進します。

■高規格幹線道路網の拡充により、交流・物流拠点や拠点都市と生産地、観光拠点との連携交流の拡大、物流効率化による地域産業の活性化、定住環境の維持に寄与



＜生産性向上が見られたストック効果① 道東道延伸（白糠 IC～阿寒 IC 間開通）＞
 —北海道最大の肉用牛生産地への飼料輸送効率化—



○肉用牛の生産において、北海道は国内最大の生産地であり、なかでも土幌町は北海道内第1位の生産地域です。肉用牛の飼料となる原材料のトウモロコシ等は、釧路港から土幌町の飼料製造工場へ輸送されています。

○白糠 IC～阿寒 IC の開通により、釧路港から工場への輸送時間が短縮され、1日当たり2往復の運行が可能となり、更に燃料消費量が約1割削減となるなど、物流の効率化に寄与しています。

＜生産性向上が見られたストック効果② 道東道延伸（白糠 IC～阿寒 IC 間開通）＞
 —広域分散型の地域構造を中継輸送が支える—



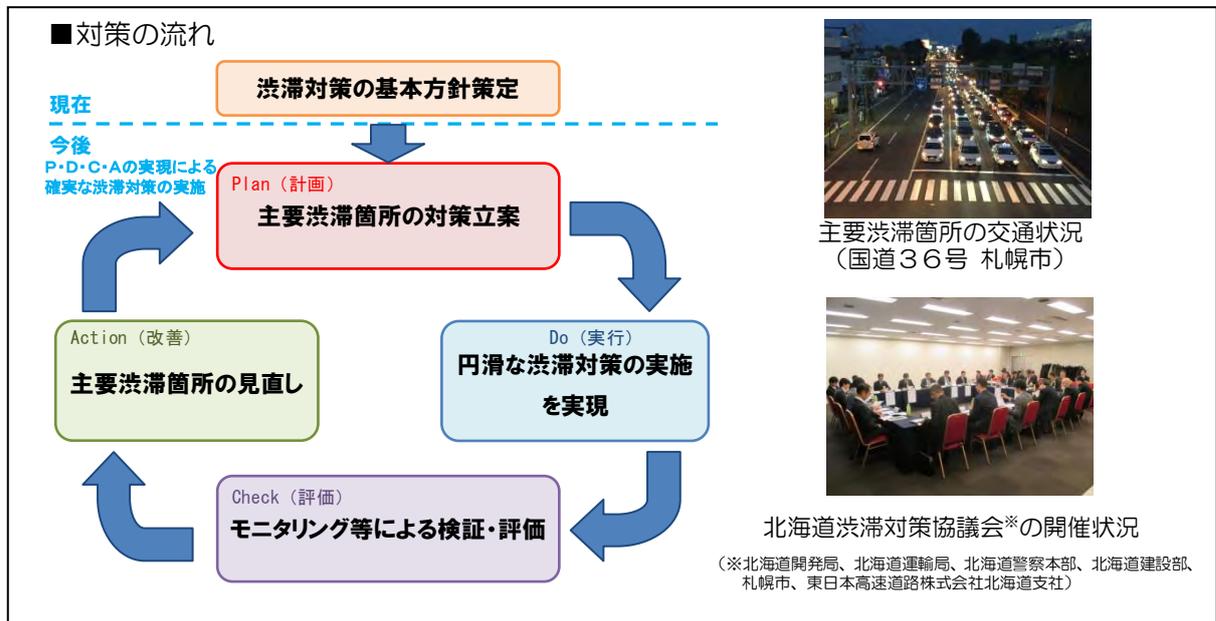
○道東自動車道（白糠 IC～阿寒 IC 間）が平成28年3月12日に開通し釧路に到達しました。道東自動車道の開通・延伸に伴い、帯広地域を中心とした中継拠点化が進行しています。

○日本の「食」を支える道東産農水産物を中継輸送により道央へ運び、生産空間と市街地が広域に分散した北海道における物流を支えています。

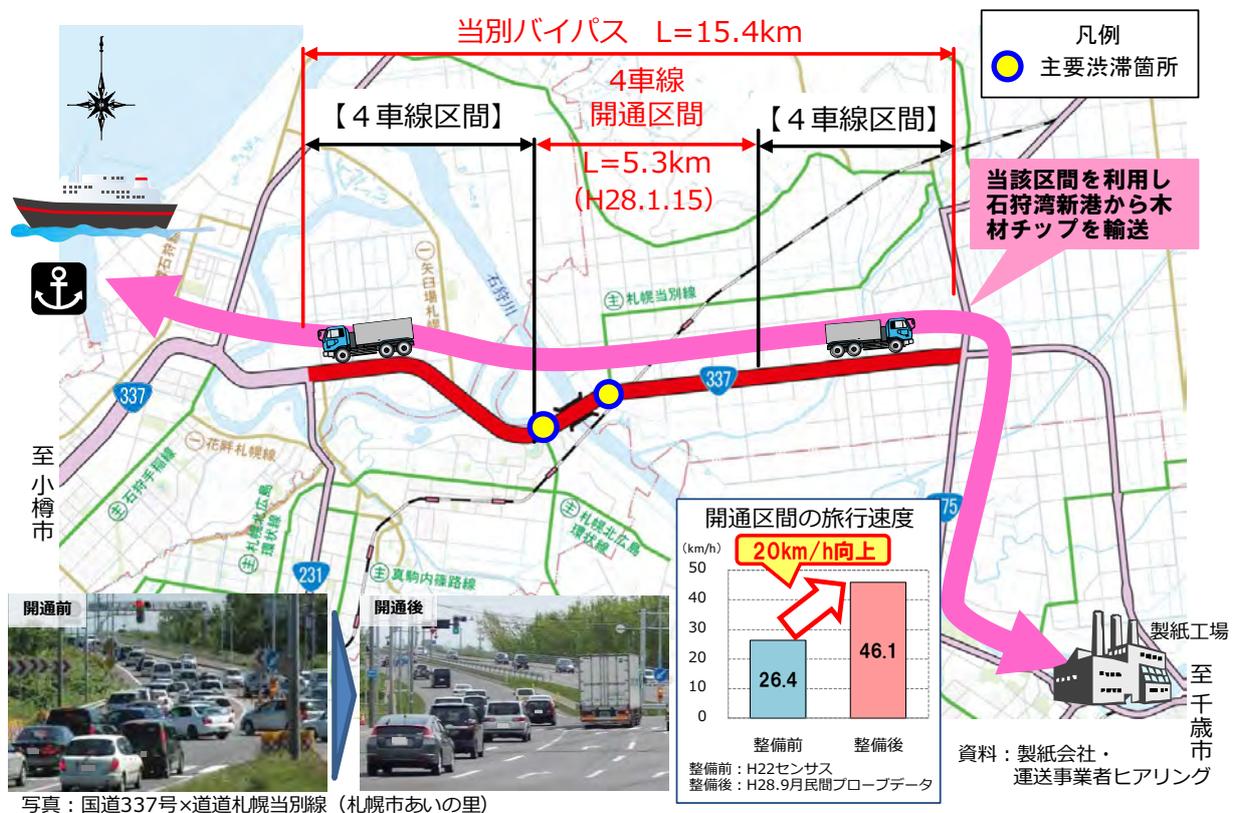
(2) 渋滞対策の推進

北海道渋滞対策協議会において特定された主要渋滞箇所（道内全路線：203箇所）の解消に向けた検討・対策を実施します。

（平成29年3月現在 対策中：64箇所、検討中：124箇所）



<主要渋滞ポイントの解消事例 国道337号当別バイパス全線開通> —ボトルネックの解消による生産性の向上が期待されます！—



○当別バイパス事業の完成により、ボトルネックが解消され、旅行速度が約20 km/h向上しました。物流の輸送時間が短縮され、生産性の向上に寄与します。

(3)「生産空間」の生活を支える「道の駅」の活用・充実

制度発足から25年、「道の駅」は全国各地に広がっています（道内117駅：第46回登録時）。当初は通過する道路利用者へのサービスが中心でしたが、現在は観光、産業、福祉、防災等、地域資源の活用や地域の課題解決を図るための拠点、目的地にもなっています。

北海道の地方部に広域に分散している「生産空間」の維持・発展のため、地域公共交通の交通結節点や、日常生活に必要なサービスを提供する場として活用する等、人流・物流の交通ネットワークと日常生活機能を保持する取組を実施してまいります。

■生産空間の維持・発展のために「道の駅」を活用した取組のイメージ

「生産空間」において日常生活の目的を果たすため市街地や圏域中心都市への移動が必要不可欠

- ・高規格幹線道路等のネットワークの構築
- ・都市間バス、路線バス、コミュニティ交通の結節点として道の駅を活用



「生産空間」では住民が必要とするサービス施設が減少

- ・日常生活の利便性を向上するため道の駅を活用

～「おいしい道の駅」の取組～

地方部での生活を支える日常買い物の利便性向上や産直品の販路拡大、「道の駅」間の物流ネットワーク構築について検討。

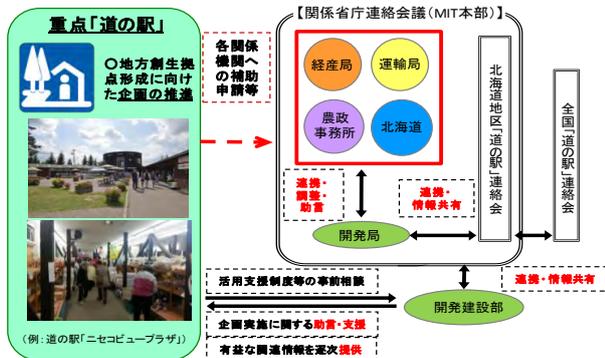


「道の駅」間の輸送イメージ

■「道の駅」の支援

重点「道の駅」の支援体制

地方創生の核となる特に優れた取組を選定し、関係省庁と連携して重点的に応援する取組を実施しています。



「道の駅」の魅力向上・機能向上への支援

道の駅SPOT（無料公衆無線LAN）の整備や、防災拠点としての機能強化等、「道の駅」の魅力・機能向上への支援を実施しています。

- インバウンド観光の促進
 - ・道の駅SPOT（無料公衆無線LAN）、EV充電器の設置
 - ・日本政府観光局（JNTO）認定の外国人観光案内所
 - ・地域の特産品を購入できる免税 等
- 防災拠点としての機能強化
 - ・広域支援の後方支援拠点とするための施設整備 等



【道の駅SPOTの利用はこのシンボルマークが目印】



【防災資材の備蓄】

(4) 北海道の価値創造力の強化に向けた多様な人材の確保・対流の促進

地域の魅力・課題に精通した地元住民等と協働して、道路の機能・役割を最大限発揮させることを目指す「協働型道路マネジメント」を推進します。

冬期の景観を確保するための住民による除雪（知床の事例）

地元住民等と協働して、歩道等を除雪することにより、観光ニーズの高い流水景観の眺望スポットを創出。（平成27年度 手づくり郷土賞 国土交通大臣賞（一般部門）受賞）



(5) 世界水準の観光地の形成

旅行者の周遊を促進するため、北海道の雄大な景観の中での移動そのものも楽しむ「ドライブ観光」や「サイクルツーリズム」を推進します。

① ドライブ観光を推進する「シーニックバイウェイ北海道」では、地域が主体となり、美しい景観づくりなどに取り組み、魅力ある観光空間づくりを進めます。



ビューポイントパーキングの整備



植栽活動

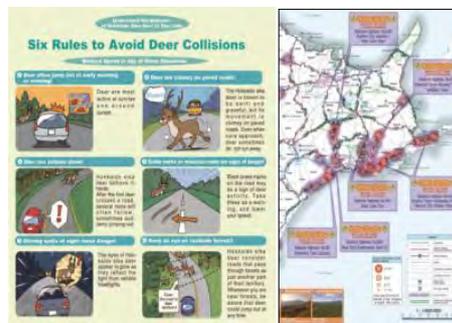


清掃活動

② 安全で安心な外国人観光客のドライブ観光を推進するため、英語による道路情報提供や外国語パンフレットの作成・配布等ストレスフリーな環境整備を推進します。



「国道39号動物飛びだし注意の英語表示」



「エゾ鹿衝突事故マップ」



「冬道ドライブの心構え」

- ③ 北海道内の高速道路ネットワークで、路線名に併せて路線番号を用いて案内する「ナンバリング」を導入することで、訪日外国人をはじめ、すべての利用者にわかりやすい道案内を行います。（平成29年3月19日開通の旭川・紋別自動車道 丸瀬布IC～遠軽瀬戸瀬IC間に北海道で初めてのナンバリング標識を設置）

■北海道内の高速道路ナンバリング

※計画区間、未開通区間を含む。

■ナンバリング標識の例

路線番号 路線名

E39 旭川紋別道
ASAHIKAWA-MOMBETSU EXP

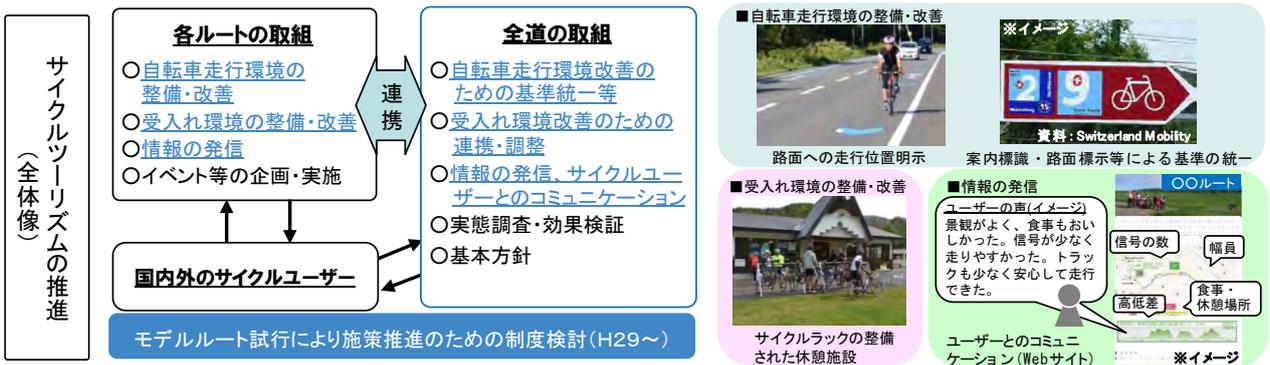
8 遠軽瀬戸瀬
Engaru-Setose

旭川・上川方面
Asahikawa Kamikawa Dir.

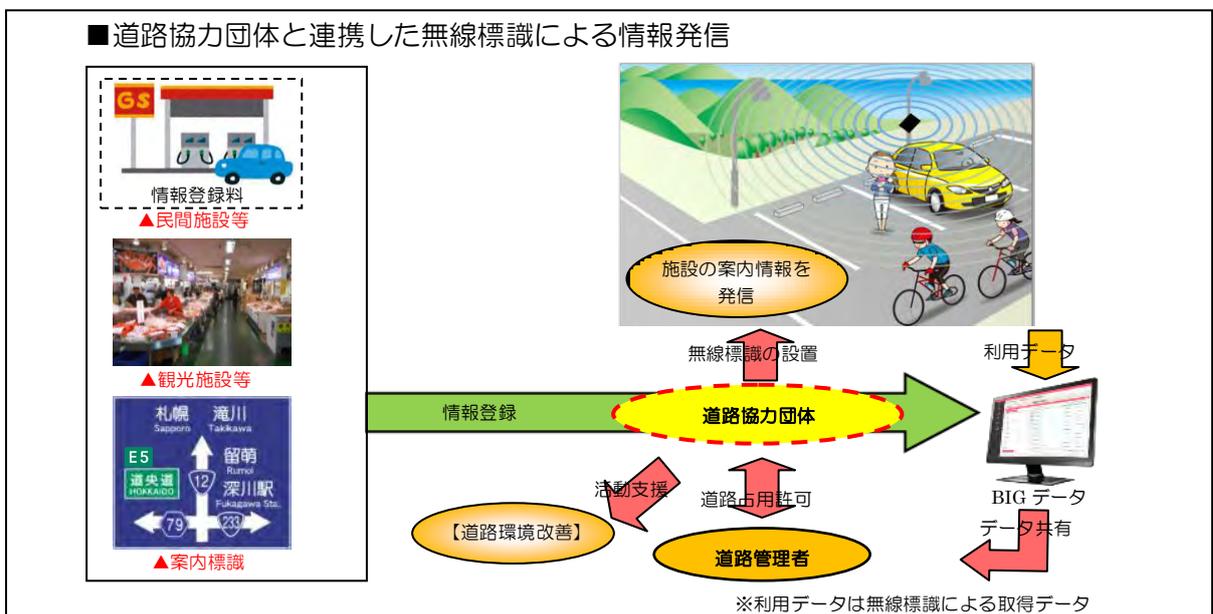
■北海道で表示される路線番号と路線シンボル

E5 道央道等 (函館～稚内)	E5A 札幌道等 (黒松内～札幌)	E38 道東道等 (千歳恵庭～釧路東)
E39 旭川紋別道	E44 北海道横断自動車道根室線 (釧路東～根室)	
E59 函館江差道	E60 帯広広尾道	E61 十勝オホーツク道等
E62 深川留萌道	E63 日高道	

- ④ 世界有数のサイクリング環境を構築し、サイクルツーリズムを推進するため、多様な関係者と連携しながら、安全で快適な自転車走行環境を創出するとともに、利用実態調査やルート診断を通じて国内外のサイクリスト受入環境の整備・改善及び情報の発信を行います。



- ⑤ 外国人旅行者の急増、個人旅行化に対応するとともに、レンタカーを利用するドライブ観光を推進するため、多言語による道路情報提供など安心・安全なドライブ環境を創出するとともに良好な景観形成に取り組みます。



2 強靱で持続可能な国土の形成

【強靱な国土づくりへの貢献と安全・安心な社会基盤の形成】

(1) 冬期交通の安全確保と暴風雪災害時におけるきめ細かな地域支援

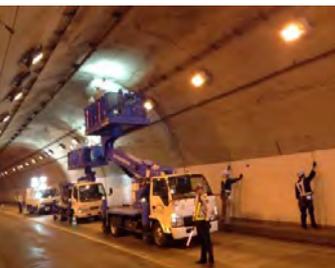
安全で円滑な冬期道路交通の確保を図るため、気象状況や交通状況等を踏まえて、適切なタイミングで除排雪作業を実施します。また、関係機関で組織する道路防災連絡協議会で相互の連携強化を図るとともに、自治体支援のため除雪機械の貸付やリエゾン^{注)}の派遣による災害関連情報の共有等の支援体制構築について継続的に実施します。

(注：重大な災害の発生または発生のおそれがある場合に情報収集等を目的として自治体へ派遣する職員)

■道路除雪・防雪施設の設置状況	■防災連絡協議会	
		
除雪作業	防雪柵	■リエゾン派遣
		
運搬排雪	雪崩予防柵	

(2) 道路施設の老朽化対策

点検結果に基づいた措置を計画的に実施することによりメンテナンスサイクルを推進するとともに、長寿命化を目指し適正な修繕を実施する地方自治体に対して技術支援等を実施します。

■定期点検及び点検結果を踏まえた措置等の着実な推進		
○「道路メンテナンス会議」を活用し、点検修繕等が計画的に実施されるよう必要な支援を行うとともに、地域単位での点検業務の一括発注を推進		
○「事後保全」から「予防保全」への転換により、長期的な修繕コストを抑制		
■技術支援等の取組		
○地方公共団体職員等向けの研修及び点検の質の向上策を実施		
		
地方公共団体職員向け研修状況	橋梁の点検状況	トンネルの点検状況

(3) 道路の防災・震災対策

大規模災害時の救急救命活動や復旧支援活動を支えるため、緊急輸送道路の強化や代替性確保のための高規格幹線道路の整備を推進します。

また、平成 28 年の相次ぐ台風により被災した道路の災害復旧を推進し、国道 274 号日勝峠については、平成 29 年秋頃を目標に通行止め解除を目指します。



(4) 交通安全対策の推進

① 生活道路・通学路の安全対策

ビッグデータを活用した生活道路対策の実施により、通過交通の排除や車両速度の抑制を図り、歩行者自転車中心の空間へ転換します。

また、通学路緊急合同点検に基づく歩道整備や防護柵の設置等を引き続き実施するとともに、継続的な合同点検や効果把握等の計画的な取組を推進します。

■ビッグデータを活用した生活道路対策

【通学路とヒヤリマップの重ね合わせイメージ】

【車両の走行速度を抑制するためのハンブ設置の例】

■通学路合同点検に基づき対策を立案・実施

【合同点検の実施】

【対策箇所図の作成】

【歩道未整備区間における歩道設置の例】

対策前

対策後

② 効果的・効率的な事故対策の推進

事故データ、地域の声やビッグデータを活用した分析により、事故の危険性が高い区間等を抽出して重点的な対策を実施する事故ゼロプラン（事故危険区間重点解消作戦）を推進します。また、近年増加傾向にある自動車専用道路の逆走防止対策を推進します。

■事故原因に即した効果の高い対策を立案・実施



急ブレーキ多発箇所
急ブレーキ多発箇所を特定
潜在的事故危険箇所の抽出

【ビッグデータの活用】



現地で事故原因等を確認
対策工を立案

【現地合同点検状況】



【左折車両と直進車両を分離する左折車線設置の例】

■自動車専用道路の逆走防止対策



大型矢印路面表示
ラバーボール
高標度矢印板

【インターチェンジ本線合流部の対策例】



高標度矢印板
大型矢印路面表示
誘導線

【自動車専用道路出入口部の対策例】

(5) 無電柱化の推進

道路の防災性の向上、安全で快適な通行空間の確保、良好な景観の形成や観光振興の観点から、地域住民や電線管理者等と連携し、無電柱化を推進します。

■現状の課題



電柱の倒壊による道路閉塞*



歩行等の支障となる電柱



景観の阻害

*出典：国土交通省 道路局 HP

■整備イメージ

整備前



電力線
電話線
電柱
ガス
上水道
下水道

整備後



地上機器
ガス
上水道
下水道
電線共同溝
電柱・電力線
埋設用ケーブル等

■整備済み区間の例

整備前



整備後



災害時に強く、より安全に
写真 国道36号 札幌市豊平区

平成29年度の道路調査の見通しについて

個別路線の事業化に向けて、ルート・構造検討に係る調査等を進めます。
主な調査箇所は、下記の通りです。

【主な調査箇所】

概略ルート・構造の検討(計画段階評価を進めるための調査)

北海道横断自動車道

たんの たかの
端野～高野

北海道横断自動車道

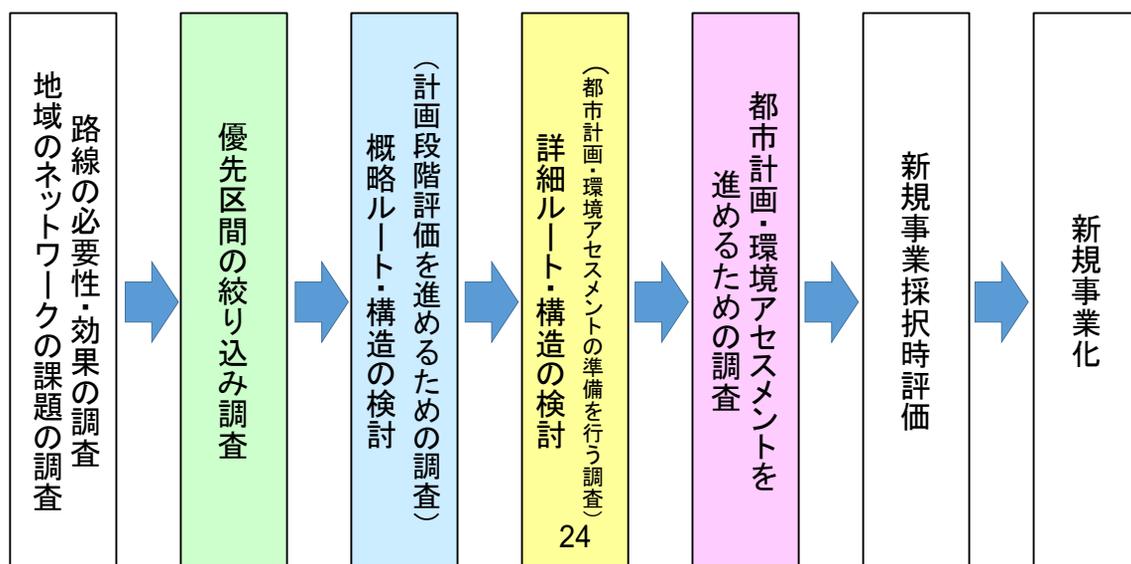
おぼろ いとぎわ
尾幌～糸魚沢

そう せい がわ どり
国道5号の創成川通については、札幌都心部と高速道路のアクセス強化に向けた、構造等の概略的な検討のための調査を実施します。

その他の未整備区間についても、当該地域の交通状況、社会経済状況や道路網の課題等を調査し、優先区間の検討や地域の道路網の中での必要性・整備効果の整理等を行います。

また、渋滞、交通安全など、地域における道路交通に関する課題、サービスレベルを把握するためのデータ収集・分析等を行うとともに、路線の必要性、緊急性、妥当性に関する基礎的な調査を実施します。

<道路調査の流れ>



平成29年度（部分開通予定）

日高自動車道 ひだかもんべつ ひだかあつが 日高門別～日高厚賀

（直轄）

1. 概要

日高自動車道は、苫小牧市を起点とし、厚真町、むかわ町、日高町、新冠町、新ひだか町を経由して浦河町に至る延長約120kmの自動車専用道路です。

このうち門別厚賀道路は、高速ネットワークの拡充による近隣都市間の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び、国際拠点港湾苫小牧港、拠点空港新千歳空港等への物流効率化等の支援を目的とした、日高富川インターチェンジから日高厚賀インターチェンジに至る延長20.0kmの事業です。

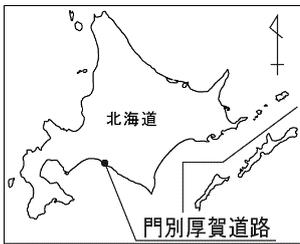
平成29年度は、日高門別IC～日高厚賀ICの開通に向けた工事を重点的に進めます。

2. 計画内容

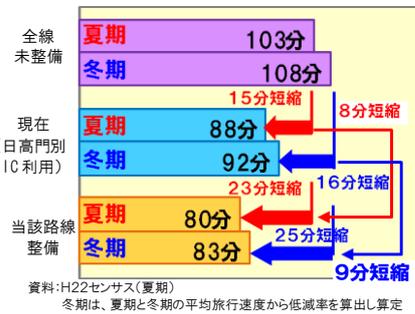
箇所 名：北海道北海道さる沙流郡日高町ひだかちやう字平賀～北海道さる沙流郡日高町ひだかちやう字美原
 延長 長：L=20.0km
 平成29年度開通予定：L=14.2km（日高門別IC～日高厚賀IC）

■高速ネットワークの形成

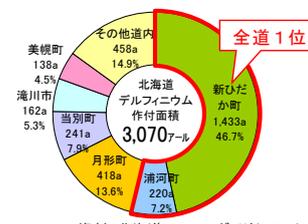
主要都市である札幌市や苫小牧市と日高地域のネットワークが強化され、物流の効率化が期待されます。



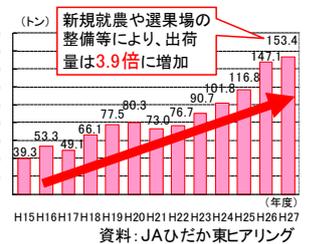
▼新ひだか町～苫小牧市間の所要時間の変化▼ 花卉・いちごの生産量



【デルフィニウムの作付面積（H26年）】



【浦河町のいちご出荷量の推移】

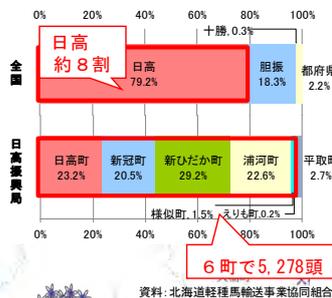


▼軽種馬・花卉・いちごの輸送状況

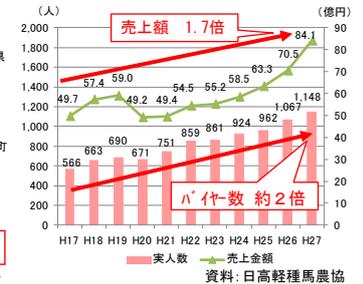


▼軽種馬の生産頭数

【軽種馬生産頭数の割合（H27年）】



【北海道市場における購買登録者数（バイヤー）と売上額の推移】



平成29年度（部分開通予定）

北海道横断自動車道 あしよろ きたみ 足寄～北見

（十勝オホーツク自動車道）

（直轄）

1. 概要

北海道横断自動車道は、黒松内町を起点とし、小樽市、札幌市、夕張市、清水町、本別町等を経由して根室市・網走市へ至る延長約694kmの高速自動車国道です。

このうち足寄～北見は、足寄ICから北見西ICに至る延長79kmの事業であり、高速ネットワークの拡充によるオホーツク圏と道央・十勝圏の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化、及び国際拠点港湾苫小牧港、新千歳空港等への物流の効率化等の支援を目的とした道路です。

平成29年度は、陸別町小利別～訓子府ICの開通に向けた工事を重点的に進めます。

2. 計画内容

箇所名：北海道中川郡本別町西仙美里～北海道北見市北上

延長：L=79.0km

平成29年度開通予定：L=16.0km（陸別町小利別～訓子府IC）

■高速ネットワークの形成

オホーツク圏と十勝圏のネットワークが強化され、物流や観光のアクセス向上が期待されます。



▼北見市～帯広市間の所要時間の変化

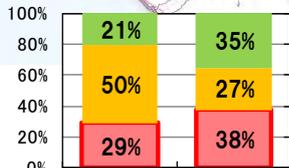


資料：H22年道路交通センサス(夏期)
H17年道路交通センサス(冬期)

▼ばれいしょ・たまねぎの主な輸送ルート



▼ばれいしょ・たまねぎのオホーツクシェア



■オホーツク圏 ■その他道内 ■道外
資料：H27 作物統計

▼オホーツク⇄十勝の観光メニューの多様化を後押し



資料：旅行代理店、バス事業者ヒアリング(H28)

資料：旅行代理店、バス事業者ヒアリング(H28)

平成29年度（新規）

一般国道36号 しらおい 白老拡幅

（直轄）

1. 概要

一般国道36号は、札幌市を起点として、恵庭市、千歳市、苫小牧市、白老町、登別市等を経由し、室蘭市に至る延長約134kmの主要幹線道路です。

このうち白老拡幅は、観光期渋滞の解消により地域振興に貢献するとともに、アイヌ文化の復興等の拠点へのアクセス改善や、国際拠点港湾間の連結強化、円滑で安全な物流の確保による企業活動の支援を目的とした延長4.8kmの4車線拡幅事業です。

2. 計画内容

箇所名：北海道とまこまい たるまえ苫小牧市樽前～北海道しらおい白老郡白老町社台
延長：L=4.8km

■観光期渋滞の解消により地域振興に貢献

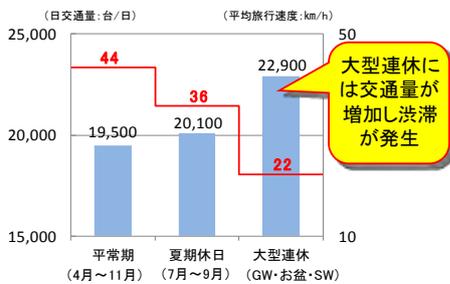
観光期渋滞の解消により道内観光の拠点である新千歳空港や札幌からの所要時間を短縮するとともに、「民族共生象徴空間」へのアクセス道路整備により、アイヌ文化の復興等の拠点へのアクセスを改善します。



写真1：観光期の渋滞状況



▼休日や大型連休には交通量が増加し、旅行速度が低下

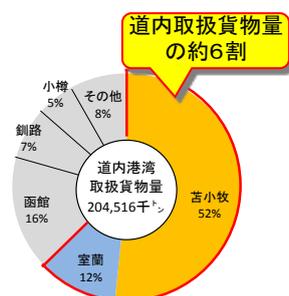


資料：H27 室蘭開発建設部調査交通量、H27 フローデータ

■国際拠点港湾間の連結強化、円滑で安全な物流ルートの確保

4車線に挟まれたボトルネックの解消により国際拠点港湾間の連結強化を図り、円滑で安全な物流ルートの確保により企業活動を支援します。

▼道内港湾取扱貨物量の約6割を占める苫小牧港と室蘭港



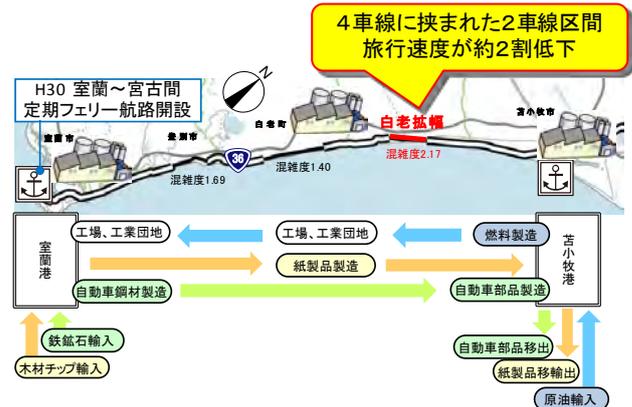
資料：北海道港湾統計年報（H27）

▼沿線自治体（苫小牧市、白老町、登別市、室蘭市）の工業製品出荷額が増加傾向で、道内シェアは約4割



資料：北海道工業統計調査

▼国際拠点港湾間における北海道最大の物流隘路



苫小牧港～室蘭港間における主な物流がボトルネック区間を通過

平成29年度（新規）

北海道230号交差点改良等（豊平峡交差点改良事業）

（直轄）

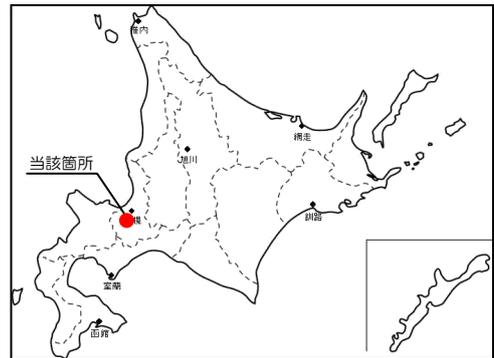
1. 概要

当該箇所は、国道230号と市道が交わる交差点で、交差点間隔が長いこと速度が高くなりやすく、右折車線もないため回避が間に合わずに追突する事故が発生していることから、事故危険区間（事故多発）に選定されています。

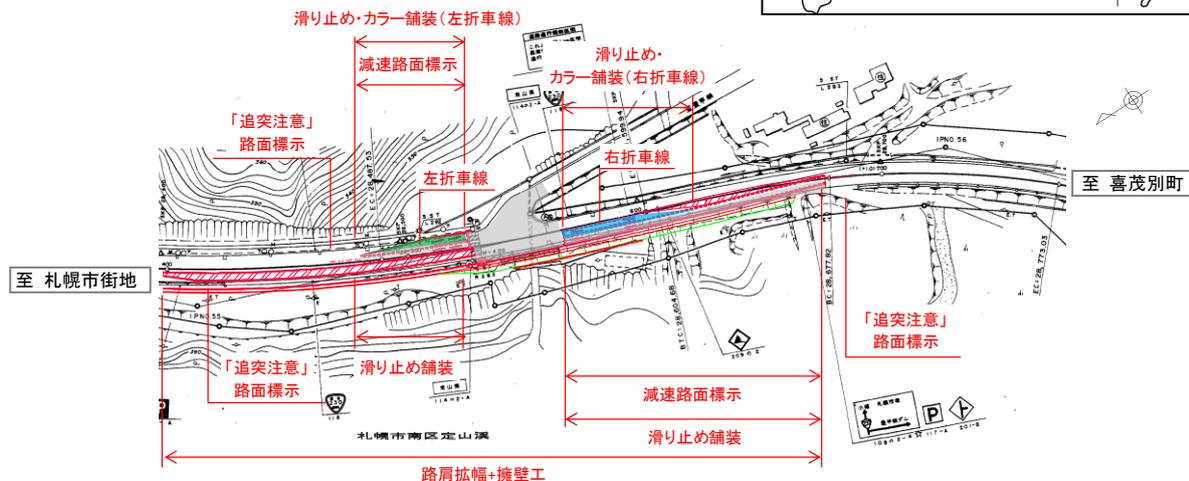
本事業は、右折車線設置及び滑り止め・カラー舗装、路面標示等の交差点改良を行うことで、事故の発生を防止するとともに、円滑な走行及び安全・安心な通行の確保を図るものです。

2. 計画内容

箇所名：北海道札幌市南区定山溪
事業量：1箇所



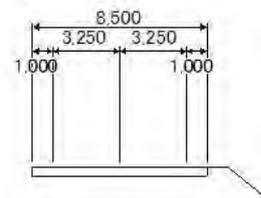
▼ 平面図



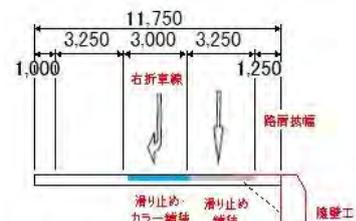
▼ 整備前（現在の状況）



【現況断面図】



【計画断面図】



平成29年度（新規）

一般国道233号 ふかがわ 深川電線共同溝

（直轄）

1. 概要

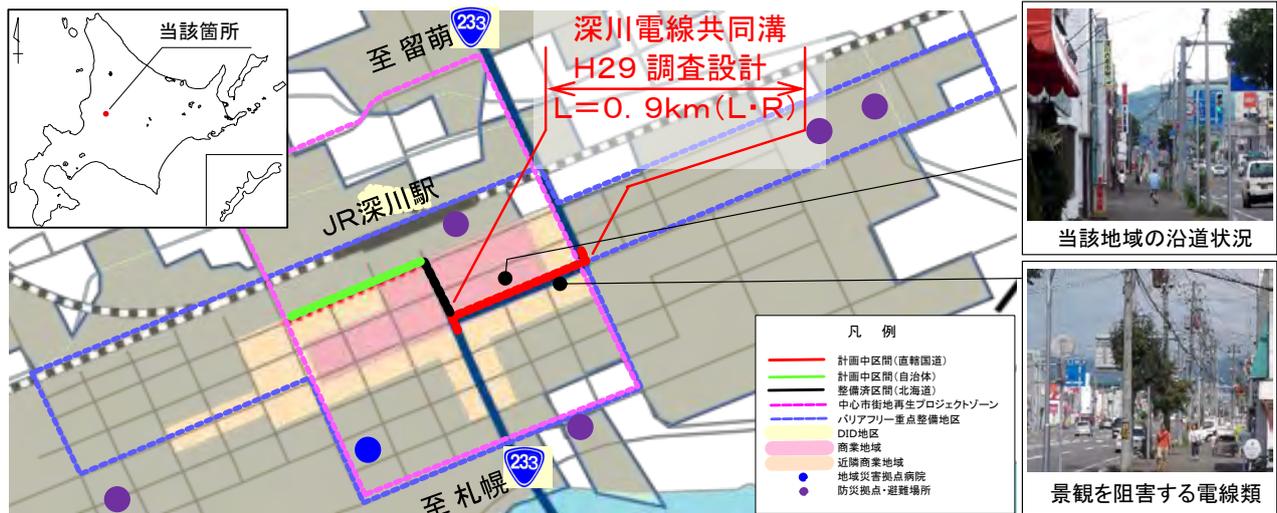
北海道233号電線共同溝（深川電線共同溝）は、深川市中心市街地の商業地域に位置するとともに、当該地域は、賑わいのある「まちなか」づくりを目指す「深川市都市計画マスタープラン」において、「中心市街地再生プロジェクト」ゾーンに位置付けられ、界隈性の高い景観形成を創出します。

また、深川市バリアフリー基本構想において、都市機能の増進や電線の地中化等を促進する「重点整備地区」にも指定されております。

さらに、国道233号は北海道緊急輸送道路ネットワーク計画において、「第1次緊急輸送道路」に指定されていることから、電線共同溝を整備し無電柱化することで、安全で快適な通行空間の確保及び地震時における緊急輸送道路の確保を図るとともに、良好な都市景観の形成や観光振興に向けたまちづくりに寄与します。

2. 計画内容

箇所名：北海道ふかがわ市4条8番～北海道ふかがわ市3条12番
延長：L=0.9km



効果1 都市防災の強化

- 電線共同溝の整備により、災害時の電柱倒壊等による交通障害を防ぎ、第1次緊急輸送道路における防災拠点（地域災害拠点病院等）間の経路を確保します。

効果2 中心市街地の活性化

- 電線共同溝の整備により、中心市街地における面的な整備が促進され、賑わいのある「まちなか」を創出する安全で快適な歩行空間が確保されることにより、魅力ある都市景観の形成が図られ、中心市街地の活性化に寄与します。

【整備前】



【整備後イメージ】



3. 港湾整備事業

1 世界に目を向けた産業の振興

(1) 農林水産業・食関連産業の振興

農水産物の輸出増加に対応するため、地域の関係者が連携して農水産物の輸出に戦略的に取り組む港湾において、農水産物の輸出力強化に資する港湾施設の整備を促進します。



(2) 世界水準の観光地の形成

急増するクルーズ需要やクルーズ船の大型化に対応するため、既存岸壁を活用して大型クルーズ船を受け入れるため、係船柱及び防舷材等の整備を推進します。



(3) 地域の強みを活かした産業の育成

穀物（飼料原料）の安定的かつ安価な輸送を実現することを目的として、我が国を代表する酪農地帯を背後に抱える釧路港において、大型船舶による穀物の大量一括輸送による物流の効率化を図ります。



大型船舶に対応した国際バルク戦略港湾の整備（釧路港）

※港湾機能高度化施設整備費補助

2 強靱で持続可能な国土の形成

港湾施設の老朽化対策

既存港湾施設の老朽化が進む中、将来にわたりその機能を発揮できるよう予防保全的な維持管理の考え方を踏まえつつ、国民の命と暮らしを守るため、計画的、総合的に港湾施設の老朽化対策を推進します。

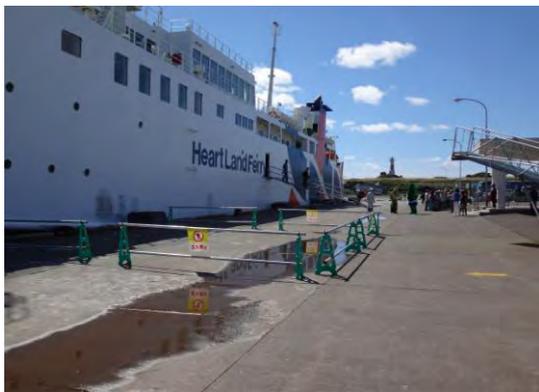


老朽化が著しい港湾施設（左は稚内港北防波堤ドーム、右は室蘭港防波堤）

3 北海道型地域構造の保持・形成に向けた定住・交流環境の維持増進

離島交通の安定的確保

離島における島民生活や本土・離島間の物流機能の安定化を図るため、離島及び本土側の港湾整備を推進します。



老朽化により立入制限されているフェリー岸壁(沓形港)



荒天時の越波等による港内擾乱(香深港)

平成29年度（継続）

釧路港国際物流ターミナル整備事業

（直轄）

1. 概要

穀物（飼料原料）の安定的かつ安価な輸送を実現することを目的として、我が国を代表する酪農地帯を背後に抱える釧路港において、大型船舶による穀物の大量一括輸送を可能とする水深14mの国際物流ターミナルの整備を行います。

2. 計画内容

平成29年度整備施設：岸壁（水深14m）、航路・泊地（水深14m）

全体事業費：182億円（うち直轄 142億円）

事業予定期間：平成26年度 ～ 平成29年度



岸壁（水深14m）整備状況

平成29年度（継続）

既存ストックを活用したクルーズ船の受入環境の整備 （予防保全事業）

（直轄）

1. 概要

急増するクルーズ需要やクルーズ船の大型化に対応するため、既存岸壁を活用して大型クルーズ船を受け入れるため、函館港、小樽港及び稚内港において、係船柱及び防舷材等の整備を推進します。

2. 計画内容

函館港

平成29年度整備施設：岸壁(水深10m)(改良)

全体事業費：41億円

事業予定期間：平成28年度～平成30年代前半

小樽港

平成29年度整備施設：岸壁(水深10m)(改良)

全体事業費：40億円

事業予定期間：平成26年度～平成30年代前半

稚内港

平成29年度整備施設：岸壁(水深12m)(東)(改良)

全体事業費：17億円

事業予定期間：平成28年度～平成30年代前半



係船柱整備による大型クルーズ船のより安全な係留（イメージ）



大型クルーズ船に対応した係船柱及び防舷材の整備

4. 空港整備事業

1 世界水準の観光地の形成

外国人旅行者の受入環境整備

近年、東アジアを中心とする国際線航空便と旅客数の急激な増加により、新千歳空港は国際線駐機場の飽和や誘導路の混雑による遅延が発生しています。

混雑の解消と今後もさらなる増加が見込まれる国際線需要に対応し、観光先進国の実現に寄与するため、国際線ターミナル地域を拡張し訪日外国人旅行者の受入環境の整備を行います。

[新千歳空港]



国際線エプロン混雑状況

2 強靱な国土づくりへの貢献と安全・安心な社会基盤の形成

(1) 空港施設の老朽化対策

航空機の安全かつ安定した運航を確保するため、滑走路や誘導路の計画的な老朽化対策を行います。

[新千歳空港、函館空港、釧路空港、稚内空港]



誘導路舗装の劣化状況

(2) 滑走路端安全区域（RESA）の整備

航空機が滑走路を飛び出したとき、または滑走路の手前に着陸してしまったとき、乗客と航空機に甚大な被害が発生します。

これらの事態が発生した際、人命の安全を図り機体の損傷を軽減させるため、滑走路端安全区域（RESA）の拡張を行います。

[函館空港、稚内空港]



航空機の離陸状況（RESA 拡張前）

(3) 空港施設の耐震対策

大規模地震発生時の緊急物資等輸送拠点機能の確保、航空ネットワークを維持するため空港施設の耐震対策を推進します。

[新千歳空港]



函館耐震対策施工状況

新千歳空港国際線ターミナル地域再編事業

（直轄）

1. 概要

近年、東アジアを中心とする国際線航空便と旅客数の急激な増加により、新千歳空港は国際線駐機場の飽和や誘導路の混雑による遅延が発生しています。

混雑の解消と今後もさらなる増加が見込まれる国際線需要に対応し、観光先進国の実現に寄与するため、国際線ターミナル地域を拡張し訪日外国人旅行者の受入環境の整備を行います。

2. 計画内容

箇所名：新千歳空港

整備内容：新千歳空港国際線ターミナル地域再編事業

事業予定期間：平成28年度～平成31年度



整備イメージ図

- ① 国際線エプロンの増設
（空港ターミナルビル増設と連携し、ローディングエプロンを増設）
- ② 誘導路新設
（国内線誘導路の混雑緩和、国際線地上走行距離の短縮※最大1.5km短縮）
- ③ 地上支援車両(GSE)置場の新設
（地上支援車両増大への対応）

空港施設の老朽化対策

（直轄）

1. 概要

滑走路や誘導路の舗装は、航空機の離着陸による熱や衝撃に加え冬期の凍結・融解によるダメージの蓄積により、劣化が進行しやすい環境下にあります。

舗装の老朽化が進行し破損が発生した場合、空港が閉鎖するばかりではなく航空機の重大な事故に繋がるおそれがあるので、航空機の安全かつ安定した運航を確保するため、滑走路や誘導路の計画的な老朽化対策を行います。

2. 計画内容

箇所名：新千歳空港、函館空港、釧路空港、稚内空港

整備内容：空港施設の老朽化対策事業

事業予定期間：－

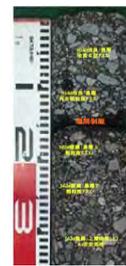


舗装の損傷（クラック）



舗装の損傷（舗装の浮き上がり）

※写真は光源位置の工夫により見えやすくしたもので、凸部が損傷箇所



←剥離部

舗装の損傷（層間剥離）

※滑走路のアスファルトをコア抜きしたもの

舗装の損傷は表面で確認できるひび割れ（クラック）のほか、表面からは判断が難しい層間剥離等多岐にわたり発生します。また、滑走路や誘導路の舗装は広大な面積であることから、損傷の状態等を調査し適切な時期の実施となるよう、計画的に対策工事を行っています。



舗装の打ち換え状況

左工事は航空機の運航に支障のない深夜から翌朝にかけて行います。

始発便運航までには航空機が走行可能な状態にする必要があるため、日々細心の注意を払い作業を行っています。

滑走路端安全区域用地造成事業

（直轄）

1. 概要

航空機が滑走路を飛び出したとき、または滑走路の手前に着陸してしまったとき、乗客と航空機に甚大な被害が発生します。

これらの事態が発生した際、人命の安全を図り機体の損傷を軽減させるため、国際基準に則り滑走路端安全区域（RESA）の拡張を行います。

2. 計画内容

箇所名：函館空港、稚内空港

整備内容：滑走路端安全区域用地造成事業

事業予定期間：平成27年度～

●函館空港の整備箇所

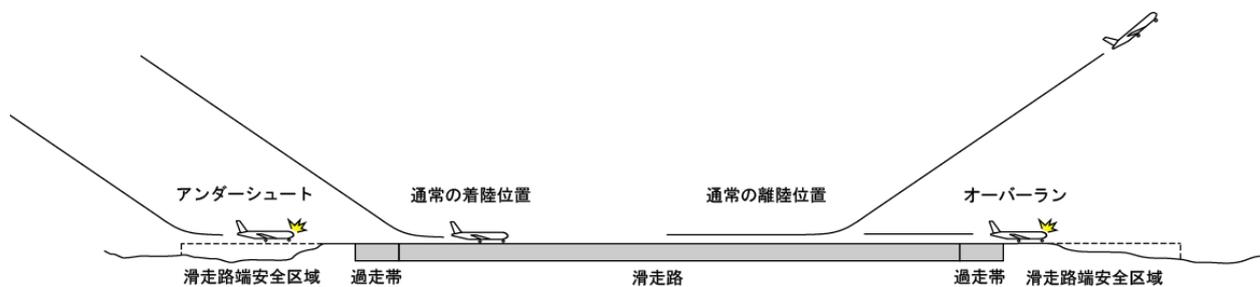


整備箇所

●稚内空港の整備箇所



整備箇所



滑走路端安全区域の概念図

5. 農業農村整備事業

1 世界に目を向けた産業の振興

(1) 農林水産業・食関連産業の振興

① 農地の整備

地域の農業振興のため、ほ場の大区画化、暗渠排水等の農地整備や担い手への農地集積により、生産コストの低減や農業の高付加価値化を図ります。

(国営(緊急)農地再編整備事業)

② 農業水利施設等の保全・更新

農業水利施設等の計画的な保全・更新により、農業の生産力の確保を図ります。

(国営かんがい排水事業、国営総合農地防災事業)



担い手への農地集積の促進と地域農業の振興を図る国営農地再編整備事業の推進

2 強靱で持続可能な国土の形成

(1) 恵み豊かな自然と共生する持続可能な地域社会の形成

自然環境と調和した生産性の高い農業の実現等を目指します。

(国営環境保全型かんがい排水事業、国営総合農地防災事業)

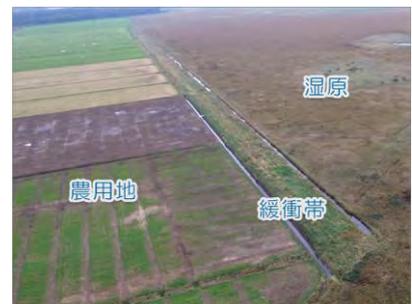


農業水利施設等の計画的な保全・更新を行う国営かんがい排水事業の推進

(2) 強靱な国土づくりへの貢献と安全・安心な社会基盤の形成

農村地域の防災・減災対策を推進します。

(国営かんがい排水事業、国営総合農地防災事業)



農地の排水整備と湿地の環境保全の両立を図る国営総合農地防災事業の推進

国営かんがい排水事業 めむろかわにし 芽室川西（一期）地区

（直轄）

1. 概要

水需要の変化に対応した用水再編により新たに畑地かんがい用水を確保するとともに、用水路やダムを整備を行い、農業用水の安定供給と維持管理の軽減を図り、農業生産性の向上及び農業経営の安定化を促進します。

2. 計画内容

関係市町村：帯広市、河西郡芽室町

受益面積：20,623ha

主要工事：ダム（改修）1箇所、用水路（新設）19.4km



【地区の課題】

○ながいも、たまねぎをはじめとした野菜等の生産に向けて畑地かんがい用水の確保が必要。



地域で作付される作物
（ながいも）



地域で作付される作物
（たまねぎ）

【事業実施により期待される効果】

○畑地かんがい用水の確保と農業用水の安定供給による農業生産性の維持・向上。



用水路の整備
（イメージ）



畑地への散水
（イメージ）



農産物のブランド化や
輸出の促進

1. 概要

区画整理を施行し、耕作放棄地を含めた農地の土地利用を計画的に再編し、さらに、担い手への農地の利用集積を進めることにより、緊急的に生産性の向上と耕作放棄地の解消・発生防止により優良農地を確保し、農業の振興と地域の活性化を図ります。

2. 計画内容

関係市町村：上川郡東神楽町

受益面積：1,535ha

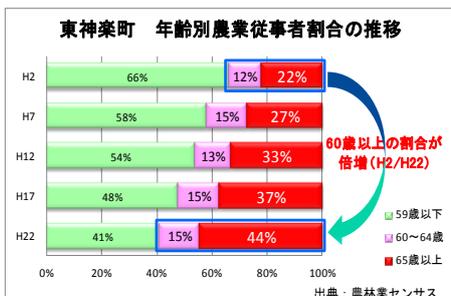
主要工事：区画整理（田）1,482ha、区画整理（畑）53ha



【地区の課題】

○農家戸数の減少と高齢化により労働力が不足し、東神楽産農産物の安定生産が困難となるおそれ。

○ほ場が小区画で排水不良等が生じ、作業性が悪いこともあり、離農跡地の継承が困難なため、耕作放棄地の増加が懸念。



0.5ha未満のほ場が地区の9割以上を占め、かつ、排水不良や石礫過多により、作業性が悪い

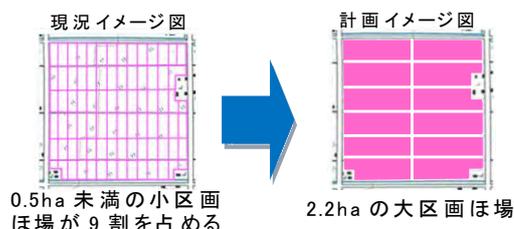


耕作放棄地 (H27) : 1.0ha
耕作放棄地となるおそれがある農地 (H27) : 210ha

【事業実施により期待される効果】

○ほ場の大区画化や暗渠排水等を整備するとともに、農作業請負体制の取組拡大（機能強化）を進めることで、ほ場作業を効率化し労働負担を軽減。

○東神楽産野菜の生産拡大を実現するとともに、病院・福祉施設等への「冷凍カット野菜」の供給拡大を図り、農業所得を増大。



★ほ場の大区画化等とほ場作業の外部委託等による農作業の効率化 ☆労働時間 水稲:4割減 スイートコーン:6割減

★「冷凍カット野菜」など野菜生産拡大 ☆地区:52ha→153ha (スイートコーン:24ha→100ha、アスパラガス:15ha→31ha)

【スイートコーン】

作業の効率化 → 野菜生産拡大 → 冷凍カット野菜生産増加 → 食品事業者 → 病院・福祉施設等へ供給拡大

現況：手取り収穫【各農家】 → 計画：収穫作業の機械化【請負組織】 → JA生産施設

1. 概要

八丁目頭首工等の改修を行い、農作物、農用地等の広域的な災害を未然に防止し、農業生産の維持及び農業経営の安定を図り、もって国土の保全を図ります。

2. 計画内容

関係市町村：雨竜郡妹背牛町、雨竜郡秩父別町

受益面積：829ha

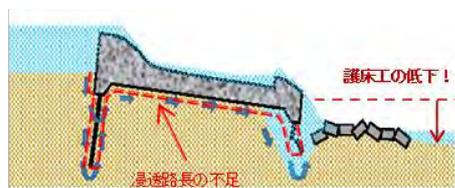
主要工事：頭首工（改修）1箇所、揚水機（改修）1箇所、
導水路（改修）2.5km



【地区の課題】

○河床洗掘による頭首工の安全性低下。

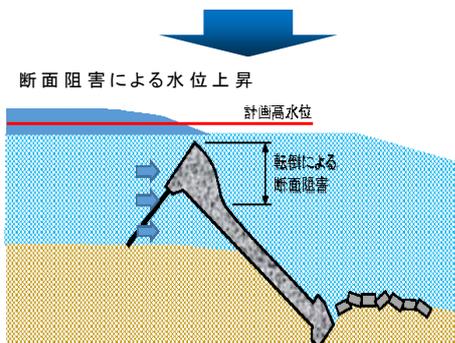
○八丁目頭首工の用水供給の停止、広域的な災害のおそれ。



【河床洗掘により

浸透路長の不足】

- ・河床洗掘により、下流側護床工が低下し、浸透路長が不足。
- ・浸透路長の不足に伴うパイピングによる固定堰転倒の懸念。



【固定堰の転倒に伴い、

洪水時に河川堤防が

破堤、洪水】

- 用水供給の停止に加え、河川堤防が破堤した場合、広域的な被害が発生するおそれ。

【事業実施により期待される効果】

○八丁目頭首工等の改修を行い、農業生産を維持するとともに広域的な災害を未然に防止。



○農業生産の維持 ○農業経営の安定化

○広域的な災害の未然防止

（被害想定面積 1,311ha）



【現況】

頭首工等の改修



【他地区事例】

農業生産の維持



【米の収穫状況】

6. 水産基盤整備事業

北海道の水産業は、全国の生産量の約1/4、生産額の約1/5を占め、我が国の水産物の安定供給に大きく貢献しています。その中でも第3種及び第4種漁港は、水産物の生産・流通拠点として広域的に利用されるなど、極めて重要な役割を担っています。

このことを踏まえ、平成29年度は、「国産水産物の衛生管理や安定供給のための基盤強化対策」、「災害に強い漁業地域づくりのための漁港施設の防災・減災対策」を重点的に推進します。

北海道第3種及び第4種漁港



北海道第3種及び第4種漁港位置図

1 農林水産業・食関連産業の振興

国産水産物の衛生管理や安定供給のための基盤強化対策

安全・安心な水産物の安定供給はもとより、水産物の輸出促進を図るため、漁港における衛生管理対策や流通機能の高度化・効率化に資する施設整備を推進します。



EU輸出に対応した屋根付き岸壁におけるホタテガイ陸揚げイメージ



清浄海水による魚体・施設の洗浄

2 強靱な国土づくりへの貢献と安全・安心な社会基盤の形成

災害に強い漁業地域づくりのための漁港施設の防災・減災対策

北海道周辺では大規模地震の発生が懸念されているほか、冬期風浪等による越波などにより安全な漁業活動が確保されていない状況にあります。このため、大規模災害発生時における水産物流通機能や漁港利用者の安全確保などの地震・津波対策、冬期風浪時における漁船等の安全対策を推進します。

また、利用者の安全、水産物の品質及び流通の確保に支障が生じないよう、漁港施設の長寿命化対策を推進します。



東日本大震災の津波による漁船被害（大津漁港）



防波堤からの越波状況（江良漁港）



老朽化が著しい岸壁（庶野漁港）

平成29年度（継続）

あつけし
厚岸地区 特定漁港漁場整備事業

（直轄）

1. 概要

厚岸漁港は、北海道東部の太平洋沿岸に位置し、道内外のサンマ棒受網、サケ・マス流し網、イカ釣りなどの沖合漁業及びコンブ、カキ・アサリ等の沿岸・養殖漁業の流通拠点として重要な役割を担っています。

当漁港では、野天での陸揚げ・荷さばき作業を余儀なくされているとともに、背後用地が狭隘であることから危険かつ非効率な作業を強いられています。

このことから、水産物の衛生管理対策の強化、漁港内の混雑解消を図るため、屋根付き岸壁や人工地盤を中心とした湖南地区の整備を推進します。



2. 計画内容

計画箇所：厚岸地区（厚岸町）

主要計画施設：－5. 5m岸壁(改良)(湖南)429m、－4. 5m岸壁(改良)(湖南)156m、
用地(人工地盤)(湖南)1,900㎡

全体事業費：149億円

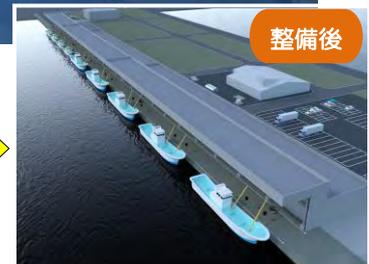
事業予定期間：平成25年度～平成34年度



野天でのサンマ陸揚げ状況



狭隘な陸揚げ岸壁の背後用地



屋根付き岸壁整備イメージ

7. 官庁営繕事業

1 防災拠点となる官庁施設の防災機能の強化等

(1) 地域と連携した防災拠点となる

官庁施設の整備の推進

地方公共団体をはじめとする様々な関係者との連携の下、大規模災害の発生に備え、防災拠点となる官庁施設の整備を推進します。これにより、災害に強い地域づくりを支援するとともに、新たなまちづくり空間やにぎわいの創出等、地域の活性化に積極的に貢献します。



帯広第2地方合同庁舎 完成イメージ図

(2) 官庁施設の耐震化の推進

災害応急対策活動の拠点としての所要の耐震性能を満たしていない官庁施設について、人命の安全の確保と防災機能の強化を図るため、官庁施設の耐震化を推進します。



北見地方合同庁舎 耐震改修イメージ

(3) 官庁施設の天井対策の推進

東日本大震災においては、大規模空間を有する建築物において天井が脱落した事案が多数発生したことから、新たな技術基準に適合させるため、大規模空間を有する官庁施設の天井について、地震時の天井耐震対策を推進します。

(4) 官庁施設の津波対策の推進

防災拠点としての機能維持と行政機能の早期回復を図るため、官庁施設における津波対策を総合的かつ効果的に推進します。



官庁施設における津波対策（イメージ図）

2 官庁施設の老朽化対策

(1) 官庁施設の長寿命化

既存官庁施設をより長く安全に利用し、トータルコストの縮減等を実現するため、ハード対策、ソフト対策の両面から、官庁施設の長寿命化を図ります。

(2) 既存官庁施設の危険箇所、

経年劣化が著しい部位等の解消

既存官庁施設において、来訪者等の安全の確保と行政サービスの円滑な提供に最低限必要な施設の性能を確保するため、危険な箇所、経年劣化が著しい部位等について、緊急的な改修を実施します。



津波被害を受ける既存庁舎



旧浦河測候所

旧浦河測候所の大規模リニューアルを行い、津波被害を受けていた海上保安署を高台移転

(参考) アイヌ文化の振興

アイヌの歴史、文化等に関する国民各層の幅広い理解を促進するとともに、将来へ向けたアイヌ文化の継承及び新たなアイヌ文化の創造発展を図るため、アイヌ文化の復興等のナショナルセンターとなる「民族共生象徴空間」が北海道白老郡白老町に整備されます。

「民族共生象徴空間」は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に合わせて一般公開することから、100万人の来場者実現に向けて、国立民族共生公園及び慰霊施設の整備を進めます。

民族共生象徴空間の概要

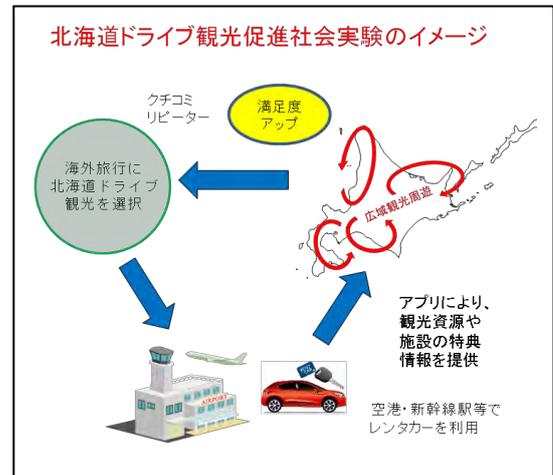


(参考) 北海道開発計画調査

北海道総合開発計画の企画、立案及び推進に必要な調査について、平成29年度は、「観光」、「食」及び「北海道型地域構造の保持・形成」分野等における課題の解決方策の検討を重点的に実施します。

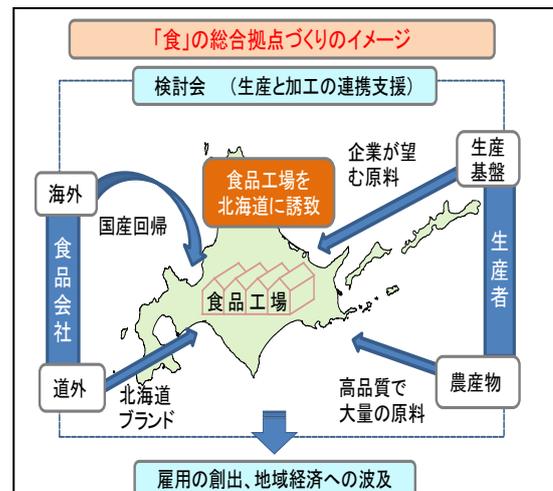
1 北海道ドライブ観光促進社会実験

地域的、季節的に偏在している旅行需要の平準化を図るため、外国人旅行者に地方部/閑散期の魅力的な観光資源の情報や観光施設等の特典情報をスマートフォンの「アプリ」により提供することで、地方部への誘導を促すほか、立ち寄りスポットや移動経路等を明らかにし、今後の観光施策に役立てます。



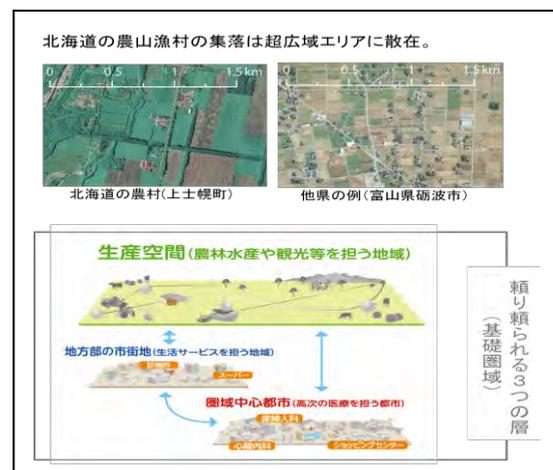
2 「食」の総合拠点づくり

北海道外等からの食品産業を誘致し、地域の雇用創出、地域経済の活性化を図るため、食品の原料生産を担う第1次産業と加工を担う食品産業等の連携による「食」の総合拠点づくりを北海道各地で展開するための取組推進に向けた検討を行います。



3 北海道型地域構造の保持・形成に向けた仕組みづくり

北海道型地域構造の保持・形成に向けては、地域特性、課題・ニーズに対応した各種施策を市町村を越えて、圏域内の各主体が連携して取り組むことが必要のため、モデル的な圏域を設定し、必要な施策群の検討及び同様の取組を各地で展開するための仕組みづくりの検討を行います。



(参考) 平成29年度 道路の主な開通予定

【直轄】

路線名	箇所名	開通予定	
		区間	延長(km)
北海道横断自動車道 (十勝オホーツク自動車道)	あしよる きたみ 足寄～北見	あしよる りくべつちようしょうとしべつ 足寄郡陸別町小利別 ～ くんねつが 訓子府IC	16.0
国道235号	もんべつあつが 門別厚賀道路	ひだかもんべつ 日高門別IC ～ ひだかあつが 日高厚賀IC	14.2
国道5号	おしよる 忍路防災	おたる おしよる 小樽市忍路1丁目 ～ おたる ももない 小樽市桃内1丁目	3.5

《防災・安全交付金》

事業主体	事業実施箇所	事業名	事業延長(km)	左記事業が含まれる社会資本総合整備計画
				計画名
ほっかいどう 北海道	る すつ 留寿都村	いわないとうや (主)岩内洞爺線	0.5	防災・安全を支える道路ネットワーク強化
ほっかいどう 北海道	れ ぶんちよう 礼文町	もとち かふか (一)元地香深線	1.6	
ほっかいどう 北海道	さろ まちよう 佐呂間町	(一)キムアネツプ岬浜佐呂間線 みさきはまさろま	0.2	
ほっかいどう 北海道	えべつ 江別市	(都)白樺通 しらかば	0.4	
さっぽろ 札幌市	さっぽろ 札幌市	(都)北8条通 きたじよう	0.4	～人に優しいまち～を実現する道路空間の安全・安心

《社会資本整備総合交付金》

事業主体	事業実施箇所	事業名	事業延長(km)	左記事業が含まれる社会資本総合整備計画
				計画名
ほっかいどう 北海道	ひだかちよう 日高町	(一)比宇厚賀停車場線 びう あつがていしやじよう	0.7	国際競争力強化等に資する道路ネットワークの機能向上
ほっかいどう 北海道	わっかない 稚内市	(一)稚内猿払線 わっかないさるふつ	2.8	道内各地域の交流・連携の深化に資する道路ネットワークの機能向上・生活基盤形成
ほっかいどう 北海道	とよころちよう 豊頃町	(主)豊頃糠内芽室線 とよころ めかないめむろ	1.2	
さっぽろ 札幌市	さっぽろ 札幌市	(市)興産社大野地線 こうさんしゃおおやち	2.7	快適な市民生活と北海道経済の発展を支える道路交通ネットワークの構築